

35. ECTによる腎動態機能検査.....竹田 寛他...558
 36. 悪性腫瘍におけるリンパ節シンチグラフィーの役割.....中嶋 憲一他...558
 37. 食道リンパ節シンチグラフィー —その有用性と限界—.....亀井 哲也他...558
 38. RI リンフォグラフィによる下肢リンパ流動態の検討.....仙田 宏平他...559
 39. 骨シンチグラム (^{99m}Tc -MDP) にて描出し得た興味ある症例の検討.....安田 鋭介他...559

演 題

1. 二抗体法による CEA RIA kit の基礎的検討

松尾 定雄 金森 勇雄 樋口ちづ子
 木村 得次 市川 秀男 安田 鋭介
 吉田 宏 (大垣市民病院・特放セ)
 中野 哲 北村 公男 綿引 元
 武田 功 (同・二内)
 佐々木常雄 石口 恒男 (名大・放)

CEA RIA kit (二抗体法, Eiken) について測定上に関する基礎的検討を行い次の結論を得た。

- 1) 被検血清は 0.1 ml, CEA 抽出操作は不要で有り、操作が簡便である。
- 2) 標準曲線の再現性は C.V. 6.5~12.2% の間に有り良好であった。
- 3) Incubation 条件は第 1 インキューベーション室温で 16 時間以上, 第 2 インキューベーション室温で 30 分以上で十分で有る。
- 4) 被検血清の再現性, 希釈試験, 回収試験等はいずれも良好なる成績が得られた。
- 5) 本キットとサンドイッチ法との相関係数は $r=0.824$ ($p<0.01$, $n=45$) であった。
- 6) 当院職員の血清 CEA 値は, 17 名は測定感度以下で残る 30 名の M.V. \pm S.D. は 1.67 ± 0.43 ng/ml であった。
- 7) 悪性疾患の陽性率は, 2.5ng/ml 以上を陽性とした場合 59.0% (78/132) で内訳は大腸癌 68.4% (26/38), 胃癌 54.2% (32/59), 胆嚢癌 80% (4/5) 等であった。

2. HBe 抗原・抗体 RIA kit の基礎的検討

金森 勇雄 松尾 定雄 樋口ちづ子
 木村 得次 市川 秀男 安田 鋭介
 吉田 宏 (大垣市民病院・特放セ)
 中野 哲 北村 公男 綿引 元
 武田 功 (同・二内)
 佐々木常雄 石口 恒男 (名大・放)

Radioimmunoassay による B 型ウイルス性肝炎関連抗原・抗体の測定は HBs 抗原・抗体を初めとし HBe 抗原・抗体および HBc 抗体の測定を可能としている。今回われわれは, HBe 抗原・抗体測定用 RIA キットについて基礎的検討を行ったので報告する。

結 論

1) incubation 条件

HBeAg; 1st. 25°C, 22 時間

2nd. 45°C, 3 時間

AntiHBe; 1st. 25°C, 22 時間

2nd. 45°C, 3 時間

設定条件は厳密に一定を保つ必要がある。

2) 再現性

・同時再現性の変動係数

HBeAg は比で 4.9~7.9%, AntiHBe も率で 0.5~92.2% の間にあった。

・日差再現性の変動係数

HBeAg は比で 11.1~31.5%, AntiHBe は率で 1.4~137.5% の間にあった。

・同時, 日差再現性ともに判定基準に変化を示した検体は認めなかった。

3) 希釈試験

高濃度検体でも一定の希釈倍率以上では直線性が認められる。

4) 測定感度

RIA は MD 法に比し, ほぼ 500 倍程の感度を有す